

キャリア教育 動機付け授業「カタリ場」 ～ 実体験による問題意識から生まれた ‘ 高校生と向き合う ’ 活動 ～

特定非営利活動法人NPOカタリバ 副代表 竹野 優花（キャリアカウンセラー）

1. はじめに

(1) キャリア教育が求められる時代背景と、実体験から得られたNPOカタリバの問題意識

今日の日本では、経済情勢や雇用形態の変化、また、若年者の勤労観・職業観の未熟さや学力の低下が指摘され、フリーターやニート、3年以内の離職率が増加しつづけているという問題が騒がれているが、実際はどうか。

数年前まで高校生だった自分たちの実体験、また、ここ数年間で公立高校100校以上、3万人近くの高校生と対話をしてきた実感から、我々はその問題点を下記のように考える。

問題は、「学力の低下」「意識の低下」「雇用環境の変化」というより、能力や意識と社会との「つなぎ役機能」の不足、例えば、社会に目を向けるきっかけの不足や、幅広い他者と意見を交換する機会の不足、若年者の自己肯定感の低さにあるのではない。

(2) NPOカタリバの考える仮説：若年者の置かれている成長・発達上の問題

- ・ 幼少期からの、様々な直接体験の機会や異年齢者との交流の場が乏しくなったこと
- ・ 多様で幅広い人間関係が不足しており、モデルとすべき生き方を見つけにくい状況に置かれていること
- ・ 「わかった」「自分にもできるかもしれない」という、成功体験や自己肯定（自信）を自覚する機会が少ないこと

これらは、自己や他者及び身のまわりの環境への関心や、勤労観・職業観の形成、確立など、若年者の発達課題の達成を困難にしていると考えられる。また、成功体験や自己肯定感、内面の成長や日常の学習態度や生活態度、更なる発見や動機付けに大

きく影響してくるものである。

つまり、若年者において、働くことや生きることに対する子どもたちの関心や意欲は低下していない。かつ、潜在的な資質・能力も決しては低くない。ただし、将来を身近に考えてみる機会が少ない、進路の探し方がわからない、動く勇気が足りない、それを他人に言えない、そこが問題なのである。非常にもったいないと言える。

何とかこのもったいない問題を解決できないか。これが、NPOカタリバの高校生と向き合う活動「カタリ場」のはじまった理由である。NPOカタリバは、外からの指摘ではなく、自分たちの実体験による問題意識から生まれた活動である。

2. NPOカタリバとは

(1) NPOカタリバの構成と目的

NPOカタリバは、高校生が、少しでも上の世代（これを「ナナメの関係」と呼ぶ）との触れ合いの中から、自らの生き方に主体的・積極的に社会参画していけるべく、動機付けのサポートを目的とする特定非営利活動法人である。

NPOカタリバは、大学生、専門学校生、フリーター、若手社会人を中心に、様々な分野で活動する20代前後のボランティアスタッフ1,800人が参加登録をしており（2007年1月現在）、自らの経験談を教材として作りこみ、高等学校の授業枠の中で、高校生と語り合うプログラムの実施運営を行なっている。組み込まれる授業枠は、「総合的な学習の時間」、「進路の時間」、「家庭科」、「産業社会と人間」などである。

なお、ボランティアスタッフは、研修や独自のコミュニケーショントレーニングを行いながら活動をしている。

また、かつて高校生として「カタリ場」の授業を

受け、こんどは自分が後輩たちにと、現在ボランティアスタッフとして高校に出向いているひとも増えている。

(2) ポイントは「ナナメの関係」(表1参照)

先生や親という上下の関係でもなく、友達という横の関係でもなく、少し年上の先輩という関係。この利害関係のない第三者的関係こそが、普段は言えない本音を引き出すために有効的な関係だと、NPOカタリバは考える。この「少し年上の先輩(以後キャストと呼ぶ)」との「生」のコミュニケーションを柱とするからこそ、分厚い進路情報誌を読んでも伝わらない「リアルな生き方」を、高校生に伝えられると考える。

3. プログラム「カタリ場」とは

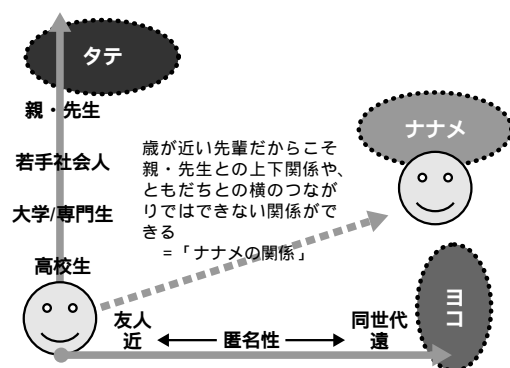
(1) 「カタリ場」～3つの流れ～(表2参照)

「カタリ場」は、ナナメの関係によって高校生の本音を引き出す段階(写真1)と、「少し年上の先輩」の生き方や進路の選び方を教材に高校生が自身を見つめなおす段階(写真2～4)、そして具体的な行動に結びつける段階(写真5)、の三本を柱として展開する。

(2) 「カタリ場」のポイント

- ・学校の抱えている課題や、先生方の想いなどを反映させてプログラムを準備できる点
- ・事前に意識調査アンケートを取り、その学校の生徒に合ったテーマの体験談を多数準備できる点

表1 「ナナメの関係」



【写真1】興味関心、本音を引き出す



▲ 自己の客観視、他己評価のラベルをはがす

：高校生と向き合い、彼らの興味関心や思い、悩み、将来に対する考えを引き出す。

【写真2】一歩先の自分をイメージするヒントを見せる ～先輩の話を書く～



▲ 情報収集、疑似体験、外(先輩/自分の将来像/世の中)に憧れを持つ

：高校生と車座になって、紙芝居や写真を使いながら自分の体験や悩み、将来の目標の話をする。

【写真3】一歩先の自分をイメージするヒントを見せる ～相談コーナーで先輩と話す～



：「何をしたいかわからない」「迷っていて決められない」「どうでもいい」などの生徒と個別に対話形式で話を深め、生徒が持っている可能性の種を引き出す、客観視を促す

表2 キャリア教育プログラム「カタリ場」の授業例

時間 /100分	内 容	ねらい	キャストの役割	生徒の感想
【導 入】 (10分)	・ 司会挨拶 ・ 趣旨流れの説明 ・ アイスブレイキング (グループ分け)	■この時間の趣旨理解	・ 高校生と10人前後のグループに分け、スタッフが入り込む ・ 緊張をほぐす ・ 授業に参加する気持ちをつくる	はっきり言って、最初はマジだるいと思ってたのに、こんな感想書きたいと思うくらいにいい授業だった。こんな人達がくる授業が、もっと増えればいいなと思う。 (高2男子)
【第一段階】 (20分) 他已評価のラベルを剥がす	・ グループ担当キャストとのワーク (班ごと) ・ 自己紹介、どのキャストの話聞きに行くか相談	■自己の客観視	・ 対話によって、高校生自身が何に興味があり何にモチベーションを感じるかなどを一緒に確認する ・ 思いや悩み、将来に対する考えを引き出す ・ 高校生が、興味関心のあるテーマ、キーワードに近いセンパイと一緒に選ぶ	自分のこと、こんなに話したのは初めてだった。自分の話を真剣に聞いてくれてなんかうれしかった。 (高1女子)
【第二段階】 (20分×2回) 自己理解を深める 一步先の自分をイメージするヒントを探す	A:キャストの話聞く (自由選択制)	■外にキャストに/自分の将来像に/世の中に)憧れを持つ ■情報収集 ■疑似体験	・ 担当キャストは、車座になって紙芝居や写真を使い、失敗談や今打ち込んでいること、将来の目標について話す カタリバの設定するテーマ(切り口)は、進路、夢、バイト、部活、恋愛、失敗談や克服方法など、高校生にとって身近で現実的なものが多い	大人っぽく見える先輩たちも、じぶんと同じようなことで悩んでたんだと聞いて少し楽になった。はやく大人になりたい。 (高2男子)
	B:相談コーナーで自分の話をする (自由選択制)	■自己理解/発見 ■価値観の確認 ■可能性の自覚	・ 「何をしていいかわからない」「迷っていて決められない」「どうでもいい」などの生徒と対話形式で話を深め、今の悩みや思いを受け止めながら、その生徒が持っている可能性を引き出し、自身の客観視を促す	特技なんてないし、別に何もやる気なかったけど、少しずつ話を聞いてもらえて、ちょっと自分に自信を持てた。将来のこと考えたいと思うようになった。 (高1女子) 本当にじぶんが何になれるのかずっと考えてて、考えすぎて考えているうちによくわからなくなってきて、このまま大人になっちゃうんじゃないかって思ってた。でも、まずは小さなことから具体的にやってみることが大事だってわかった。 (高2女子) それも素敵なことだよ。進路って、そういうことから繋がるんだと思うって言われたのが衝撃的だった。 (高2男子)
	「ポンプ役」という機能の設置 ・ 会場を巡回し、どこへ行こうか迷っている生徒や、授業に参加せず隅に座り込んでいる生徒に積極的に話しかけ、その場で相談に乗る。また、ほかのコーナーを紹介しながら、会場全体の雰囲気盛り上げる ・ 「授業」としての参加を促す			
【第三段階】 (30分) アクションプラン	「約束」の時間	■行動目標の設定 ■新しく行動を起こすためのフォローアップ	・ 話ただけでは終わらないよう、発見や思いと一緒にまとめ、「今日からできる約束」としてカードに書くよう促す(アクションプランに落とす) 例)「週に○回～する」「○に聞いている」「○を○種類調べる」「いつまでに○を～する」など 「約束」の内容は、高校生の意識レベルによって違う	実は、今のじぶん好きじゃない。前はもっと頑張ってた。でも、最近あまり頑張っていない。今日いろんな先輩の話を聞いてやばいと思った。だから、まずは学校の授業を頑張ってみようと思う。‘1日1回授業のあと先生に質問をする’っていう約束をした。 (高2女子)
【アフターフォロー】	公開掲示板「カタリバカフェ」 ・ アフターフォローとして、匿名で報告・相談できる公開掲示板「カタリバカフェ」を運営している			

【写真4】



▲悩み相談，価値観の確認，自己理解，可能性の自覚

：「ポンプ役」会場を巡回し，どこへ行こうか迷っている生徒や授業に参加せず隅に座り込んでいる生徒に話しかけ，その場で相談に乗る

【写真5】具体的な行動目標の設定 - 「約束」



▲新しく行動を起こすためのフォローアップ

：話しただけでは終わらないよう，今日の発見や思いを一緒にまとめ，「今日からできる約束」としてカードに書くよう促す（アクションプランに落とす）

更なるアフターフォローとして，匿名で報告や相談ができる公開掲示板「カタリバカフェ」を運営している。

- ・「ナナメの関係」にある大学生・専門学校生・若手社会人らが語りかけたり，話し相手になる点
- ・大人の先入観や価値観ではなく，同じ若者感覚で高校生と向き合うところからはじめられる点
- ・高校生にとって，身近で現実的だと感じられる失敗談や後悔したことを直接話せる点
- ・興味がわからず，授業に参加できてない生徒にも柔軟に対応できる体制をとっている点
- ・話を聞くだけで終わるのではなく，授業内での気づきや刺激を「今日からできる約束（アクション

プラン）」に落とす点

- ・授業後も，公開掲示板「カタリバカフェ」によりアフターフォローができる点（個人情報保護機能あり/事前に学校の許可確認）

(3) 対話の事例紹介 ～「相談コーナー」でのやりとり（3種）～

「ナナメの関係」を活かしたコミュニケーションとは，一体どんなものであるか。実際どのようなやりとりをしているのかについて，「相談コーナー」に焦点を絞り，キャストの視点から対話の流れを紹介することにする。

【事例1】「なにがやりたいのかわからない」という生徒に対して

テーマ：「コンビニは学問の宝庫」

→「コンビニってよく行く？まずどこから見る？」

→「私は「キャンペーンもの」とか「期間限定もの」に弱くて，ついつい買っちゃうんだよね。」

→「ワールドカップの時のコンビニとかすごくない？用がなくても見ちゃうよね。」

→「あれってさ，実はすごい仕掛けがあるんだよ。私は素直にひっかかってしまっているの。」

→「例えば心理学。どうすれば人の目に留まりやすいか，惹かれやすいかが研究されてて，だから私はひっかかる。ほかにも，社会学・経済学・マーケティング・デザイン・文学・建築学・住居学なんかも，関係あるかな。」

→「コンビニでバイトしてた友だちが，商品陳列コンテストで賞を取るために，すごい研究して全商品を並べ替えたらしい。結局賞も取れたんだけど，これをきっかけに興味湧いたらしく，今はそういう仕事をめざして頑張ってる。」

→「そう，コンビニって実は学問の宝庫なんだ。こんど行くとき，ちょっと意識してみてよ。」

▲【身近なところにある「仕事・学問」に気づかせる】

【事例2】「サッカー(部活動)しかしてない」という生徒に対して

テーマ：「「サッカーが好き」にもいろいろある」

→「「サッカーが好き」にもいろいろあるよね？」

→「例えば，シュートを入れた瞬間が好きという人，パスがうまく繋がったときが好きな人，観るのが好きな人，部活のあとに，みんなで行くマックの時間が好きな人」

→「。。。くんは，どれ好き？」「今までで，すっご

く印象に残ってることってある？」

→「ほかにもそういうことを感じる時ってある？
例えば、クラスでの役割は？家では？バイトでは？」

▲【発想の転換を促す】

【事例3】「特に何も話したくない」という生徒に対して

テーマ：「文化祭の役割から知る自分の長所」

→「最近、文化祭があったって先生に聞いたけど。
どんな出しものやったの？」

→「お好み焼き屋？あー、私、広島県出身だから大好き。」

→「食べものや料理をつくることには興味があるの？」

→「そうか、特に興味はないんだね。じゃあ、どんな係を担当したの？」

→「へー。そうか、オーダー取り係か。ま、料理係は人気ありそうかもね。」

→「でもさ、どうしてその係にしたの？」

→「そうか、来たお客さんをもてなす重要な役割だね。お店の雰囲気全体を見るわけだし。」

→「みんな楽しめているか、が気になるんだね。楽しんでないひとがいると、なんか責任感じてほおっておけないんだね。」

→「ステキだな。じゃあ、けっこういつも盛り上げ役だったりする？」

▲【褒める・自己肯定感を高める】

(4) 参加者の声 ～カタリ場を客観的にみる～

【先生方の声】

教室でいつもぼつんとして、なかなか他の子とコミュニケーションの取れない子が、先輩たちとニコニコ話している姿は非常に印象的でした。担任の先生が、「最近あの子、私に話しかけてくるようになってね」と言っていました、自分のことを少しはさらけ出してもいいのかなと思って、まずはじめに先生に話しかけてみよう、という気になったのではないかなと思っています。(公立高校 教諭)

カタリバはすごいパワーを持っていて、それが生徒に伝染するんだと思います。親身になって聴いてあげることから入って、示唆するのではなく、本人たちの持っているものを聴いて広げてあげよう、っていうのがカタリバにはあります。普段は「先生また変なこと言ってるよ」という生徒も、「何でこのお兄さんお姉さんたちは、知らない私のために真剣になってくれるんだろう」ということを生徒自身が

感じて、知らぬ間に夢中になって話しているんです。(私立高校 教諭)

普段、メールでしかコミュニケーションの取れない子どもたちが、時間を惜しんで話し込む姿に、内心ホッとしました。「こいつら、話できるんじゃない」。日常的に接している大人以外にも、真剣に自分の話を聴いてくれるひとがいることに、彼女彼らも安心したのではないのでしょうか。この学校の生徒は「食わず嫌い」が多く、「やりたいこと」があるのに、「やらなければならないこと」にぶつかると挫折してしまうところがあります。みなさんとふれあっているとき子どもたちには、久しぶりに見る清々しい笑顔がありました。(公立高校 教諭)

【高校生の声】

カタリバの授業を受ける前は「めんどくさい」「とりあえず今が楽しければいいや」という感じで楽観的に生きていた。カタリバのセンパイが来た時も、はじめはまったく興味がなくて、こんな誰だかわからない人たちに、自分ことを話すのもイヤで抵抗もあった。でも、話をするうちにだんだんと打ち解けていって、知らぬ間にすごい喋ってる自分に気づいた。いつもは絶対話さないようなちょっと真面目なことを言ってたけど、ちょっと楽しかった。最近では、将来のことを真剣に考えるようになって、まだ明確な目標とかはないけど、もっといろんな大人の話を聞きたいなと思っている。親がどんな仕事をしてるのかも気になる。(高1 男子)

部活のことで悩んでいたとき、カタリバの授業でセンパイに相談に乗ってもらって、生活がガラッと変わった。授業に来ていたセンパイの中に、大学生で新聞記者をやっているという人がいたので話を聞きに行った。社会人にならなくても、自分で動けばチャンスはいくらでもあるということを知った。高校生記者を募集している新聞もあるということを知った。「やばい」と思った。悩んでいたことがなんかちっぽけだったなー、と思った。部活を辞めて勉強をがんばるようになり、今は「新聞記者になりたい」という夢が具体的にになってきたのを感じる。いろんなことが気になるようになった。大学生になったら、いろんな国に行ってみたいと思っていた、そのために必要な英語をがんばりはじめ、カタリバの授業の前は2番目に成績の悪い科目だったけど、今では一番いい科目になった。あの時、センパイと話せずに、勉強もせずにいたら、今ごろ進路に悩ん

で何もできないやって感じになってたと思う。(高1 女子)

「英国音楽筆記試験」というテストを受けることになってはいたものの、先生も心配するほど勉強してなかった。テキストも「わかんないや」という感じだった。だけど、カタリバの大学生が「モヤモヤしてるくらいなら、ちょっと整理してみようよ」と、アメリカへの留学経験を例に話をしてくれて、それを聞いて「自分からテストを受けるって言いながら結局中途半端で、勉強もしないで、何のために受けるのか意味わかんない」と思った。それで、「なんで受けようと思ったのか」について、大学生と話しながらもう一度自分の中で確認をした。はじめの目的を思い出した。そこから一生懸命勉強して、92点取って受かったの。その大学生と最後にした「約束」で、一步踏み出せたなという感じだった。今は、次の試験をめざしている。それから学校の授業も寝なくなった。(高2 女子)

親にも先生にもともとだちにも言えないことがある。今日、それを聞いてもらって、すごく楽になった。親にも話したらわかってもらえる気がしてきた。(高2 男子)

この機会が1年生のときにあれば、もっと勉強してたと思う。もったいない過ごし方をした。今日からホンキになりたい。(高2 女子)

はっきり言って、最初はマジだるいと思ってたのに、こんな感想書きたいと思うくらいにいい授業だった。こんな人達がくる授業が、もっと増えればいいなと思う。(高2男子)

本当にじぶんが何になれるのかずっと考えてて、考えすぎて考えているうちによくわからなくなってきて、このまま大人になっちゃうんじゃないかって思った。でも、まずは小さなことから具体的にやってみることが大事だってわかった(高2女子)

大学生の目が輝いていた。自分もあんなりたいなって思った。(高1 女子)

自分のこと、こんなに話したのは初めてだった。自分の話を真剣に聞いてくれて、なんかうれしかった。(高1女子)

今日遅刻せず学校に来てよかった。(高1 男子)

特技なんてないし、別に何もやる気なかったけど、少しずつ話を聞いてもらえて、ちょっと自分に自信を持てた。将来のこと、考えたいと思うようになった。(高1女子)

それも素敵なことだよ。進路って、そういうことから繋がるんだと思う、って言われたのが衝撃的だった。(高2男子)

実は、今のじぶん好きじゃない。前はもっと頑張れていた。でも、最近あまり頑張っていない。今日いろんな先輩の話を聞いて、やばいと思った。だから、まずは学校の授業を頑張ってみようと思う。‘1日1回、授業のあと先生に質問をする’っていう約束をした。(高2女子)

もし自分が大人になった時、いま考えている道に進んでいなかったとしても、それはそれでいいんだって思えるような気がする。これからが楽しみになった。(高2男子)

大人っぽく見える先輩たちも、じぶんと同じようなことで悩んでたんだと聞いて、少し楽になった。はやく大人になりたい。(高2男子)

5年後機会があったらカタリバのスタッフをやってみたい。(高1 女子)

【キャストの声】

フレンドリーな雰囲気にならず、ある程度の緊張感を持って、彼らの興味関心を引き出すように心がけています。限られた時間の中での‘真剣勝負’。毎回ものすごく緊張します。マスコミではとかく高校生をマイナスイメージで捉えがちですが、真面目に話してみると実はとても熱いハートを持っていたりする。そういう高校生に出会えるとうれしいです。教師志望なので、そのための経験値をここで上げてさせてもらっています。(大学3年 男子)

実は、教育にそんなに興味があるわけではない。でも、自分自身の‘進路選びの苦戦’が、カタリバで活動する背景としてあります。とにかく悩んで迷って遠回りして今の自分がいるようなものなので、その経験を高校生に伝えられたらと思い、カタリバの活動を続けています。(専門学校1年 女子)

私は高校生の時、やりたいことがなかった。進路を決める時、親や先生にもらったアドバイスを素直に聞けなかった。そもそも自分のやりたいことがなんなのかわからなかったし、選択肢も狭かった。だからなんとなく大学に行くことを決めた。今だからわかる。高校生の時に面倒だな、嫌だなんて思っていたことも、全部いまの自分の糧になっている。だから、それをたのしむことが大切だってことを、押し付けじゃなく伝えてくれる人の存在が大切だと思う。カタリバの活動を通して、高校生に、あのころ

の自分に言いたいことを伝えたい。(大学4年 女子)

カタリバにはいろんなキャストがいる。普通に専門学校に通っていたら出会えなかっただろう人たち。みんなのいろんな今までの歩みや、これからの夢を聞いているだけで、こんな考え方もあるんだって視野が広がっていくのを実感する。高校生だけでなく、自分も毎日の出会いからの気づきがたくさんある。だからたのしい。(フリーター 男子)

【行政の声】

これまでの学校は、先生がいて生徒がいて、教科書で教えて、クラブ活動があって、というような自己完結的な組織でした。これからの学校は、子どもたちに様々な自己形成の機会を提供する「開かれた」存在へと変わらなければいけないと考えています。それは、先生たちだけの力でできるものではありません。子どもたち・若者たちがいろんな人たちと出会い、たくさんの刺激を受けるような空間を学校の中につくっていくためには、学校外の多くの人たちの協力が必要です。そんなことを考えていたとき、NPOカタリバとの出会いがありました。ある都立高校のプログラムを見に行ったとき、すごく印象的なことがありました。カタリバの授業「カタリ場」が始まる前に、先生方が生徒へ「静かにしなさい」と注意をしても、なかなか静かにならなかったのです。でも、カタリバのひとが司会を始めた途端、静かになったのです。そのことの意味を、私たち大人はしっかりと理解しなければなりません。カタリバのスタッフの関わり方というのは、この生徒はできる子だとか、できない子だといった先入観を持たず、素の高校生と向き合おうとしています。その姿勢こそが、高校生たちの持っているいろんな側面を引き出すのだと思います。子どもや若者のなかにある夢やこだわりを大切に思い、それを後押ししてくれる存在がいかにすくないかということを、日々感じています。カタリバは、そんな高校生たちの素の気持ちを引き出してくれる「メンター」とであると言えるのではないのでしょうか。(教育庁 職員)

4. 見えてきたこと「キャリア教育の課題」

冒頭にも述べたが、現在日本が置かれている若年者のキャリア教育の問題に対し、その大きな解決策として次の二点をあげたい。ひとつは「自己肯定感

を高めること」、そしてもうひとつは「多様な他者と幅広い人間関係構築の機会をつくること」である。

(1) 自己肯定感を高めること

自己肯定感とは、自分を認め自信を持つことである。これは、自己の新たな可能性の発見や自己理解の深化といった、内面の成長と深く関わってくる。また、自分の進路・将来設計・進路の選択決定に関心・意欲を持つことによって、日常の学習態度や生活態度を大きく変化させる。この自己肯定感を高めるためには、「できた」「わかった」という成功体験の自覚や、褒められるなど、第三者の言葉を借りて自己を再認識する機会が効果的である。

(2) 多様な他者と幅広い人間関係構築の機会をつくること

特に中高生に多く見られる傾向として、同世代との限られた人間関係しか持たず、それ以外の人間関係を持つことに慣れていない。このことが、自立意識や社会性を培う上でのマイナス要因となっていると考えられる。こうした課題に対応し、多様な他者と幅広い人間関係を構築する機会をつくることで、それが社会や将来への関心や意欲が高まる動機付けとなり、様々な情報を得るチャンスにつながる。

(3) キャリア教育における学校および先生の役割

カリキュラムの開発、および地域・家庭・企業・行政やNPO団体などとの連携・機会をコーディネート(調整)する役割。

5. おわりに

学校には、毎年必ず数百名の卒業生がいる。神奈川県のある公立高校では、その卒業生をうまくネットワークで繋ぎ、また地域の社会人や商工会などと連携し、独自でNPOカタリバのような「センパイネットワーク」をつくっている事例がある。また、東京都教育委員会では2007年度より、学校と社会をつなぐ機能として「コーディネーター制度」がはじまる。

今日、世の中では「地域に開かれた学校を」というテーマが掲げられているが、特にキャリア教育においては、学校と社会とがうまく連携し、先生はそのコーディネーター(調整役・つなぎ役)となるのが理想だと考える。NPOカタリバは、先生方が使いやすい「事例」のひとつになっていきたいと考えている。

じっきょうの家庭科副教材

資料集 + 成分表 (家庭科資料集と成分表を1冊にまとめました)

ニューライブラリー家庭科
資料 + 成分表 改訂版
B5 / 288p. 定価780円(本体743円)

ニュービジュアル家庭科
資料 + 成分表 改訂版
B5 / 288p. 定価780円(本体743円)
2点共通 教師用指導書完備

ノート教材

ライフスタディ家庭総合
B5 / 128p. 定価600円(本体571円)
教師用指導書(別売)完備

ライフスタディ家庭基礎
B5 / 104p. 定価450円(本体429円)
教師用指導書(別売)完備

家庭科サブノート
B5 / 80p. 定価530円(本体505円)

ビデオ教材

成分表利用のさいに、また調理実習の指導用教材として、使いやすく「見て理解できる」DVD教材をご用意しました!

調理実習ビデオ 新発売
調理の基本テクニック DVD
○調理の基本を中心に、栄養素と調理実験の内容も盛り込みました。
定価6,300円(本体6,000円)

資料集

資料 アクティブ家庭科
B5 / 192p. 定価730円(本体695円)

資料家庭科
B5 / 144p. 定価700円(本体667円)

テーマ30 Let's study 家庭科
B5 / 96p. 定価500円(本体476円)

成分表

新刊

オールガイド五訂増補食品成分表
B5 / 352p. 定価780円(本体743円)
「五訂増補食品成分表」の全食品を掲載した成分表

新選食品成分表
B5 / 232p. 定価650円(本体619円)

カラグラフィ五訂増補食品成分表
AB / 208p. 定価690円(本体657円)

調理実習補助教材

基本マスター フード&クッキング
~レシピ+成分表~
B5 / 96p. 定価500円(本体476円)

イラスト調理BOOK
~基本・応用・理論~
B5 / 160p. 定価770円(本体733円)

(価格は2007年3月1日現在)

定 価 210円(本体200円)
2007年3月12日印刷
2007年3月15日発行

○ 編修・発行  実教出版株式会社 代表者 島根正幸
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777 <http://www.jikkyo.co.jp/>